

まごころだより

2021年 11月号

11月からコロナ対応における制限が全地域で全て解除されます。それを喜ぶ人、いやまだ安心できないと警戒感を緩めない人、思いはそれぞれです。コロナウイルスによって2年近くも振り回されてきた今は生活様式や経済面ではすっかり様変わりしてしまいました。

自由な行動や催し物を楽しみにしてきた私たちですが、こんなにも窮屈で気落ちする期間を強いられることになって、改めて自由ということがどんなに素晴らしいことか、その自由の深い意味も考えさせられることにもなったのではないのでしょうか。

介護施設では面会、催し物、お出かけ等は全て取り止めになったことで、それを楽しみにされていた方達はとても寂しい思いをされています。



そこでもデイサービスなどは、

他者との会話の機会を持ってもらうところであり、密閉、密集、密接の最たる場所になることから、色んな対策をとってきました。今までは感染された方はおられませんでしたが、まだまだ気を緩める事はできません。最近は2～3人程度で公園に散歩に行くようになりましたが、それでも少しは喜んでいただいているかと思います。これからの状態を見た上で、少しずつ以前のように楽しんでもらえる機会を増やしていきたいと思っています。



“子供達とのふれあい”

高齢の利用者が癒される瞬間の一つはやはり幼い子供達と触れ合った時の様です。たまにでも子供の方から近づいて来てくれるとやっぱり嬉しいようです。普段に見られない優しいまなざしで見つめる高齢者の表情は貴重です。介護を提供する私達がどんなにしても見られない表情を、子供達は一瞬に引き出してくれます。身体を使って遊んでやれなくても、高齢者の優しい声かけは子どもにとっても安心なのでしょうか、自分の方から高齢者に近づいて行きます。かつて子育てした時とは少し違うゆったりした調子で話し掛けられます。それが心地よいのかもしれませんが、その様子は遠くから見ていてもいいものだなと思います。



“恒例のお茶会”



いつもは番茶かコーヒーを飲んで頂いていますが、この日は“抹茶”です。おやつはクッキーやチョコレートですが、ちゃんとした“和菓子”です。この特別なお茶会も今ではすっかり恒例化しました。見た目は緊張されているようですが、本当は慣れっこになっているのじゃないのでしょうか。お茶会を始めた頃の表情と今の表情が違うように感じます。良い表情を見せてもらえるので、この先も続けていきたいと思っています。